

第8回「東海財界倶楽部」例会 「全国及び東海地方の経済状況」



河上洋右税関長

河上税関長は最初に世界経済の流れを総括し、その矛盾がピケティへの関心の高まりへとつながっていると言及。自身のヨーロッパやロシアなどでの経験を交え、欧州不安が異文化への不寛容をもたらしている現状や、ギリシャ経済危機が大きな混乱をもたらすことはないと考えられる理由、英国のEU脱退問題の深刻さなどを解説。さらに中国経済の今後の成長に関する見解や課題などを語った。

平成二十七年四月十五日、第八回「東海財界倶楽部」例会が開催された。同会は東海地方で活躍する経営者を中心とした異業種交流会。当日は名古屋税関河上洋右税関長が、演題を「世界経済の展望と日本・税関の課題」と題して講演。親睦会などが行われた。

平成二十七年四月十五日、ホテルオークラレストラン一四階

「光の間」(名古屋市東区東桜一四―二五 テレピア)で、第八回「東海財界倶楽部」例会が開催された。

当日は、午後六時から受付を開始。正会員・準会員を含め中部地

区で活躍する経営者ら約三〇名が出席。

午後六時三十分からの第一部では、名古屋税関の河上洋右税関長を講師に迎え、演題を「世界経済の展望と日本・税関の課題」として講演。

最後に「管内五県の色々な企業、工場、研究所を回って思うのは、この地域には何でもあるということ。その底力をもっと活用して、日本経済を引っ張って欲しい。為替に左右されないものづくりを目指してほしい」と出席する経営者へのメッセージを述べた。

午後七時二十五分からの第二部では、会場を同じくして、晚餐を交えた名刺交換会および親睦会を開催。ホクセイの山下三男代表が「雑誌の内容も落ち着いてきている」と評価した上、「出席者のますますのご発展を祈って」と乾杯の発声を行った。

立食式の中華晚餐を交えた親睦会が和やかに行われ、最後は税理士法人アクシス代表社員の藤井隆夫氏による一本締めで中締めが行われた。

◇ 次回の東海財界倶楽部例会は六月十七日午後六時三十分より、メラルク名古屋で開催。講演者には駐名古屋大韓民国総領事館朴煥善総領事を迎える。